

教室における自由で自然な言語使用の役割と その実現の条件

松村昌紀

中部地区英語教育学会山梨大会シンポジウム
【英語授業を創る「タスク」の発想】
2014年6月21日, 山梨大学, 甲府市



山 名 城 大 学

ミッシング・ピース

過去の CELES シンポジウム テーマ

1. 本質・目的・意義・歴史	英語教育学	1,4,20,21,29,30
	歴史	19,25,32,40
	英語教育論 (含目的論)	5,6-1,7,8,10,14,15,17,39
	比較英語教育	6-2,36
	学校外の英語教育	10
2. 教科課程論	カリキュラム	38
	教育政策	9,13,31,34,36
	公立小学校の英語教育	24
3. 教材内容論	言語材料	*
	技能	*
	文化 (国際理解)	26,28
4. 教授方法論		*
5. 教材メディア論	メディア	27
6. 学力評価論	学力	23,35
7. 学習者論		10,11,12,16,37
8. 教師論・教師教育		2,3,11,18,22,23
9. 関連諸学科		*
10. その他		*

(*は該当無し)

内容

1. タスクについての簡単なイントロ
2. 「基礎・基本」再考
3. 「発達」の考え方
4. タスク基盤の相互作用
5. 簡単なまとめ

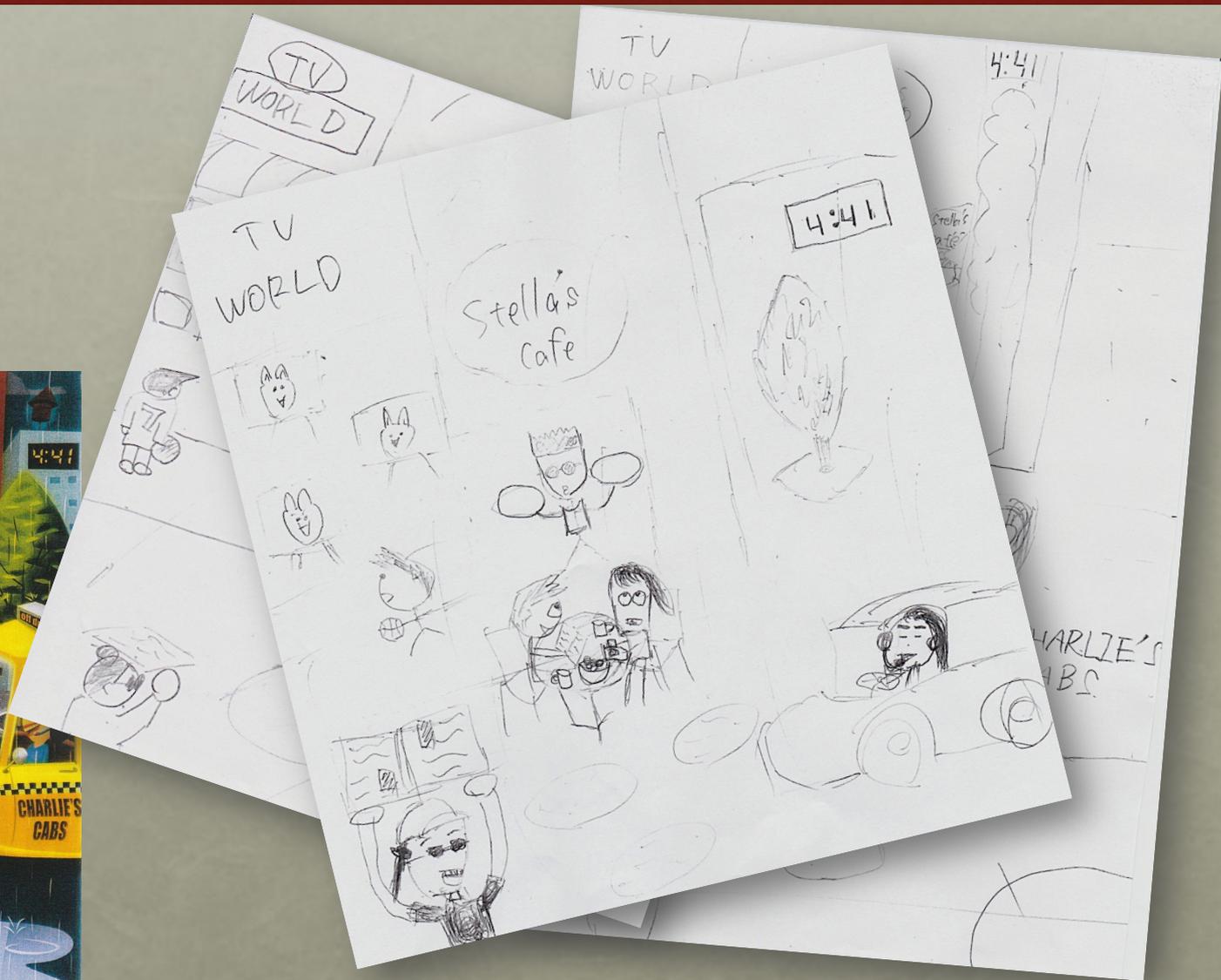
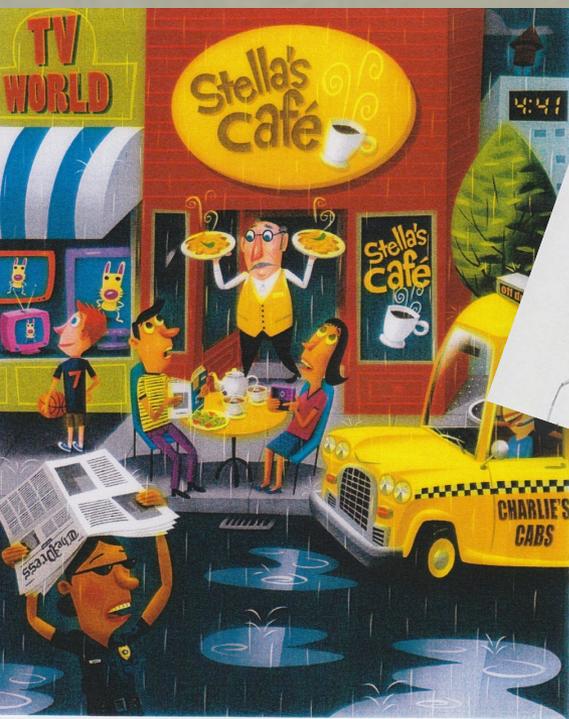
簡単なイントロ

タスク

成果としての目標* を達成するため、
否が応でも目標言語の理解や表出が必要になる課題

* 「正しく英語を使えたり理解できたりすることを見せる」 **のではない** 目標

描画複製



タスクの活用

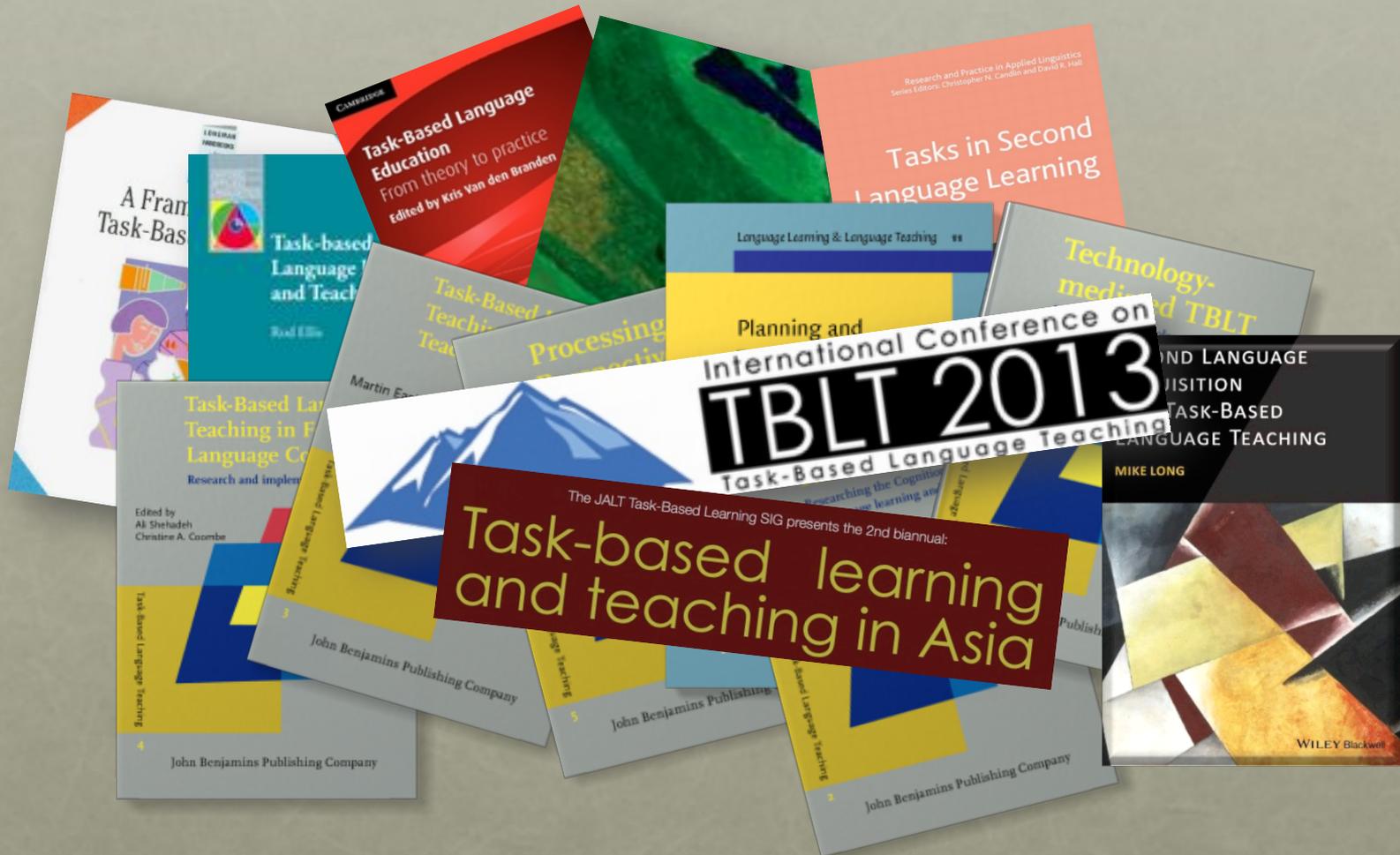
タスクを利用することが

- 学習者のどのような言語使用を生み出し,
- それがどのような学習機会となって,
- 授業にどのような新しい次元を作り出し,
- 学習者の発達をどのように支援することになるか

タスクを

- シラバス編成の原理とすることはできるか

タスク研究と実践



.....学術誌の特集, 学術会議・研究大会のパネル, ブック・チャプターなど

慎重論・忌避論

- 外国語環境の日本にタスク中心のメソッドはなじま**ない**
- その効果はまだきちんと示されてい**ない**
- 一時の流行に踊らされてはいけ**ない**
- 受験対応ができ**なく**なってしまう／学習成果を正確・具体的に示せ**ない**／それでは文法や語彙をきちんと学習していけ**ない**
- 思考・分析力の養成を目指すべき英語教育がゲームや遊びのような内容ではいけ**ない**
- 授業の收拾がつか**なく**なりそうで心配だ／即興的な対応力，教員の指導力・英語力が問われそうで自信が**ない**
- そういうやり方は好きでは**ない**

タスクに取り組む学習者

B: Ah, ah, left side under table.
 A: Left side under table, oh, oh, oh.
 B: ...side...
 xxxxx, ah, ah, family. There is family?
 A: Three family...three people
 B: Three family! Haha...
 A: Three, three, three.
 B: Three people, aahh...
 A: Eating potato?
 B: Eating potato. A man?
 A: A cup cup cup cup.
 B: A child?...a cup, a cup.
 A: Cup?
 B: There is cup. Ah, right potato eating.
 A: えっと, madam.
 B: Madam?
 A: Madam.
 B: Madam?
 A: Right hand.
 B: Right hand?
 A: Have hamburger.
 B: No!! No. No, no, no!
 A: Ah, one more, one more, one more. え~と, madam is...

B: Madam is...ah, potato eating.
 A: Madam i...ah touch, touch touch...
 B: Touch.
 A: Madam is touch?
 B: Potato.
 A: Hamburger, hamburger!
 B: There is wrong! There is wrong!
 いち, に, さん, よん, five, five wrong. Now five wrong.
 A: Five, five.
 B: Uh...ah, a family...a family child...ah, brother.
 A: Brother.
 B: Brother, a potato.
 Bro...brother's right hand potato?
 A: Right? Ah, right hand, right hand.
 B: Right hand potato.
 Ah...



評価？

「こんなことでいいんですか!?!」

「基礎・基本がまるでできていない！」

「間違いだらけでひどすぎる！」

本当にだめか

少しはいねいに考えてみる

2

「基礎・基本」再考

誰もが言う

基礎・基本

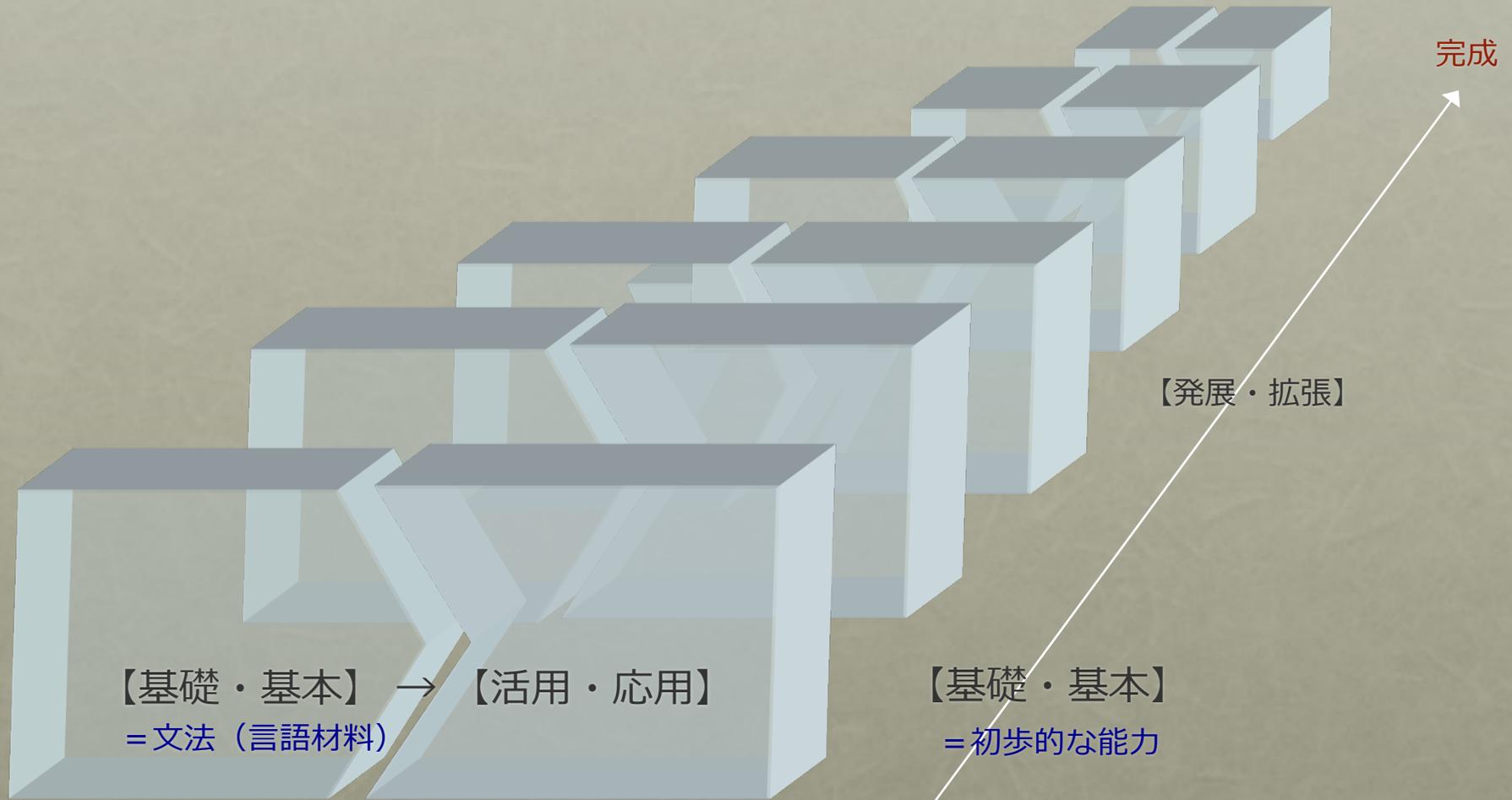
が大切です。

このように

そもそも中学・高校の6年間で実用に資する高度な英語の運用能力など身につくものではない、というところからまず確認しておきましょう。そして、言語の運用を学ぶ以上、聴き取りも会話も英語学習の重要な部分ではありますが、日本の言語環境内での学習効率を考えた場合、限られた授業時間の中で生徒同士が英語（らしきもの）でやり取りをしたところで、ほとんど焼け石に水です。まずはそのような環境の中でも比較的定着しやすい文法や読解の**基本**を学ばせ、それを会話に**応用する練習**をさせたり、それぞれが自らの必要に応じて英語力を**積み上げる**ための**基礎固め**と学習の方向付けを重視すべきです。

齊藤兆史「もう一度英語教育の原点に立ち返る」
大津由紀雄他『英語教育、迫り来る破綻』（ひつじ書房, 2013年, 31頁）

イメージ



間違い

表出時に間違えないように、**基礎**の養成と定着に手を尽くしたのだから
基礎（となるパーツ）を積み上げ、完全を目指してきたのだから

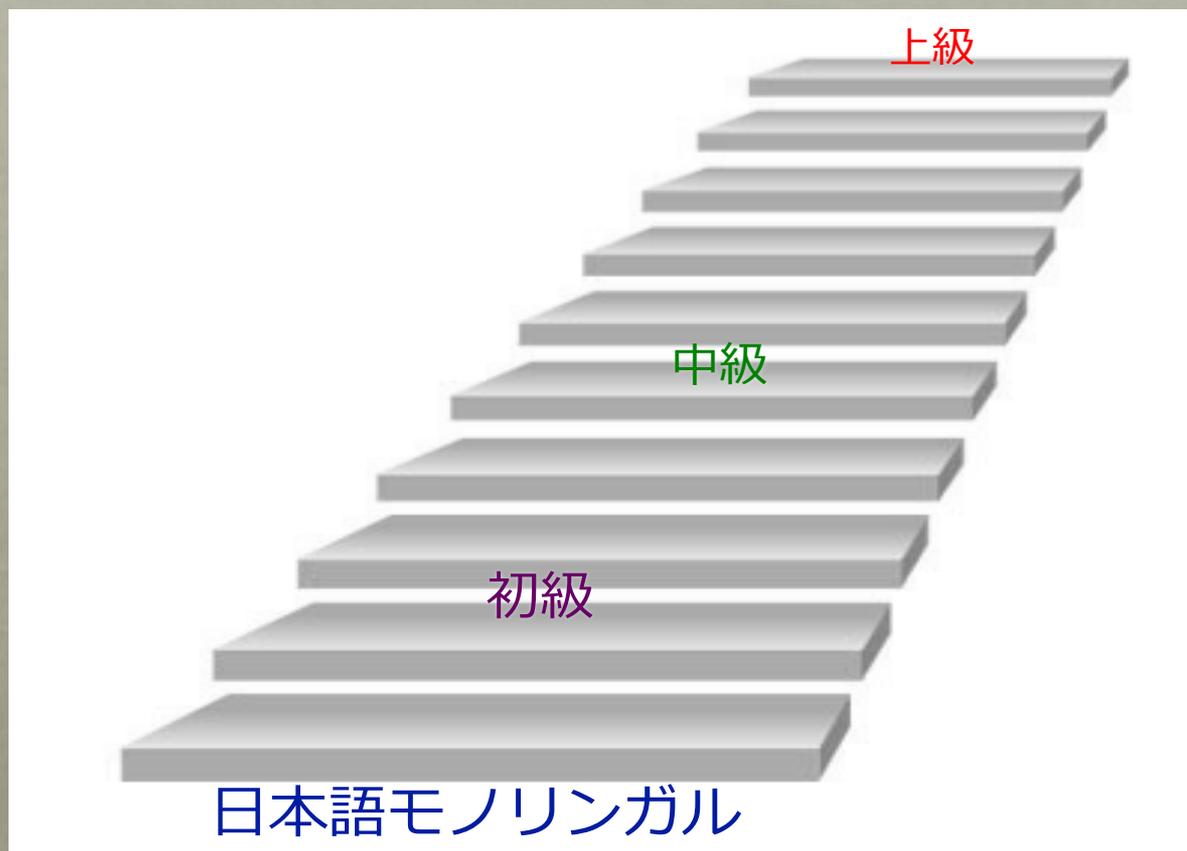
表出における間違い

= 指導／学習の**失敗**

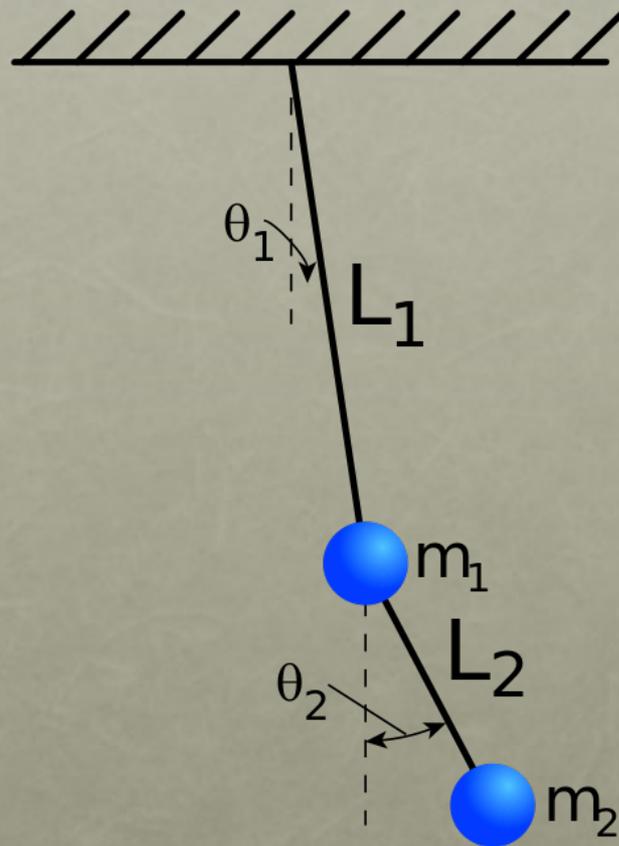
3

「発達」の考え方

階段



ネットワーク, シナジエティクス ダイナミック・システム



ジャングル・ジム

技能の相互依存

U字型発達

パラメーターの収合
(クラスター)

内的シラバス

コネクショニズム

“You can't learn
without goofing.”

間接的 (肯定) 証拠

個人内変異
(バリエーション)

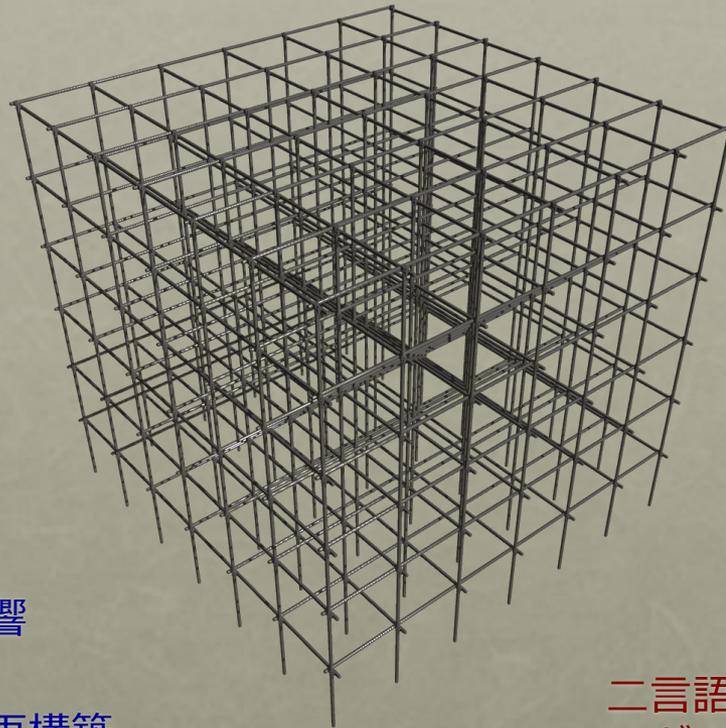
言語発達の複雑性と
非線形性

交差言語的影響

再構築

二言語併用と言語喪失
のダイナミズム

相転移



さまざまな技能

ダンス

楽器演奏

決められた動き

野球

言語使用

運転

絶え間のない状況対応

全段階「できること」保証

野球 と言えば、
特に教育文脈で言えば

エラーはする、暴投もする、空振りもする、ルールのおやふやなところもあり、
ときにどうしたらいいのかわからなくなる

でも、**曲がりなりには**試合形式で野球を「**できる**」

——入部して半年目には半年目なりに、1年目には1年目なりに、
3年目にはそれなりのレベルで

経験を通じた習熟

近似概念

Experience-Based Learning (EBL) /
Experiential Learning Theory

他領域のコンセプトや実践

【応用化学】 Project-Based Learning (PBL)

【メカトロニクス工学】 Problem-Based Learning (PBL)

【建築】 デザインをすることを通して、デザインについて学ぶ

【数学】 生徒が自分たちで教科書を作る

【芸術】 写真の上達のためには、とにかく数を撮ること

エコロジカルな発達観

発達の新しい考え方

(どんな段階でも決して完全ではない) 総体としての能力の拡張によってもたらされる「できること」の増大

So What?

見えてくるもの

発達を志向する学習者が、ぎりぎりのエッジを切り開こう
としながら発しているサイン

- 完全さを追い求めたとき、そこには決して現れず、見えないもの
- 協調的・協働的ディスコースが提供するアフォーダンスの中で、はじめて可視化されること
- 学習者が言語を本当に自分のものに (appropriate) しようとしている姿
- 学習者の力の総体を理解し、適切な指導をするために、絶対に見る必要のあること

4

タスク基盤の相互作用

協動的繰り返し

——言語使用と発達的前提／本当の「基礎」——

A: Kitchen.

B: kitchen

A: Are...are there two...

B: two

A: oven in kitchen?

B: in kitchen.

A: Yeah?

B: Yeah??

A: あ, ちがう. Are there...

B: Are there.

A: two...

B: two...

A: two oven...

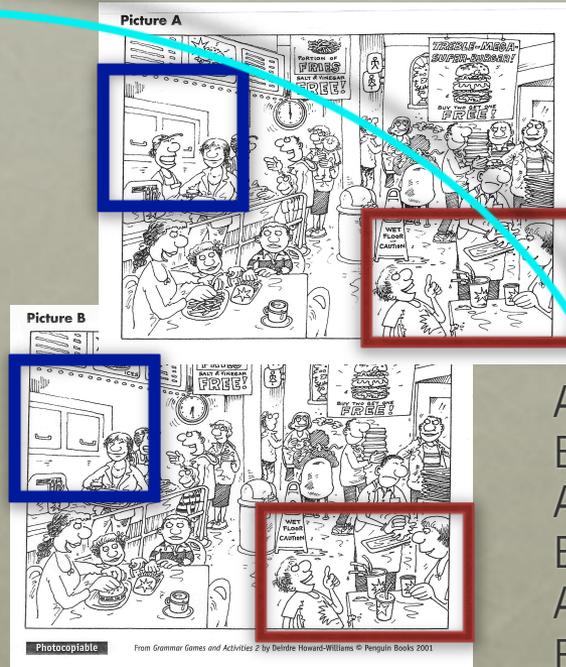
B: oven...

A: or locker

B: locker, oven locker.

A: in kitchen?

B: in kitchen



A: ...Right under picture.

B: right under picture.

A: Two...two people.

B: two people.

A: Right...right person.

B: right person?

A: Catch the cup.

B: catch the cup, small...
small.

A: small? Yes, yes, yes,
yes.

協働的発話構築

——垂直構造——

A: Shop staff

B: Shop staff

A: writing

B: writing...are writing?

A: woman's order.

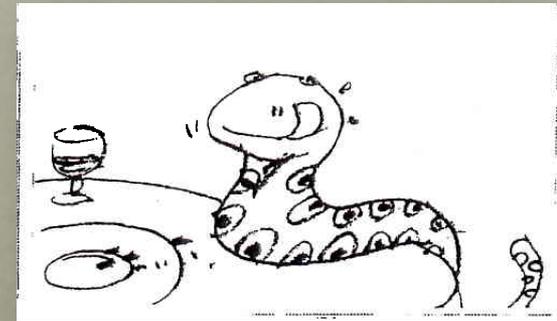


A: Staff, staff, staff. Left woman

B: woman

A: Oh, and woman sit?

B: sit on chair.



A: But snake

B: Snake

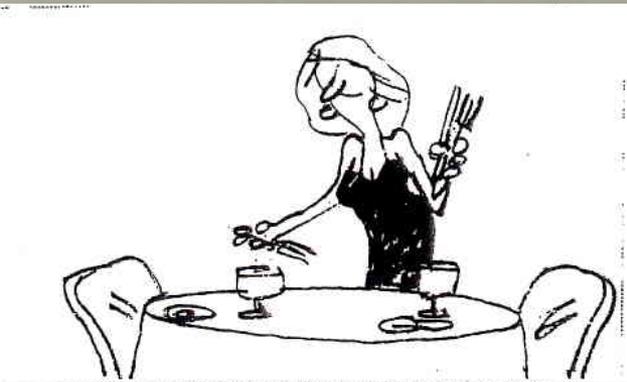
A: have

B: have

A: dinner

B: Ah! Snake have dinner.

支援的な情報提供



A: Ahh, I have scene
ah...she...hmmm...

B: Dinner? Dinner?

A: Ah, yes. She, dinner, she... hmm...

B: Make? Make?

A: Make...make?... hmm...

B: Cook? Cooking?

A: Ah... hmm...

B: Ah, what do y...what is woman i...
doing?

A: Ahh...eh, fork and knife

B: Hmm, yes.

A: On the table set.

B: Ah, hmm, hmm, hmm, hmm. Ah,
sixteen.



意味交渉

そして、それを通した正しい形式への到達



A: Boys
B: Um.
A: s...memo
B: Mm...
A: memoing
B: Memoing? Ah...
A: writing on the memo.
B: Ahhh! Waiter?
A: Waiter.
B: Ahh! OK, OK...

B: Ah, OK. Table...table is...
A: Have.
B: Have
A: Four pole.
B: Fork?
A: Pole.
B: Pole? Pole??...
A: Pole, pole, ちがう。
B: ああっと, floor?
A: Ah...table have four...four leg.
B: Leg.
A: Leg.



形式に向けられる自発的注意

現在完了

A: Open box.

B: Open bo...ah, ちがう。Um, open box..ええ? Open box..え, snake eat Tom...try to eat Tom.

A: Eat Tom.

B: Eat Tom?? This picture try to eat Tom??

A: Ah...

B: **Have...have...have eat...have eaten, have eaten.** え~なんかでも, 番号がわからない.

受動態

B: Ah, snake.

A: snake.

A: Snake present to man... boy friend.

B: boy...to Tom ね.

A: Tom. Tom...

B: Tom.

A: Hehe.

B: Ah!

A: is eaten

B: eaten...

snake.

B: Eehhh!!

A: Ehehehe. Tom is...

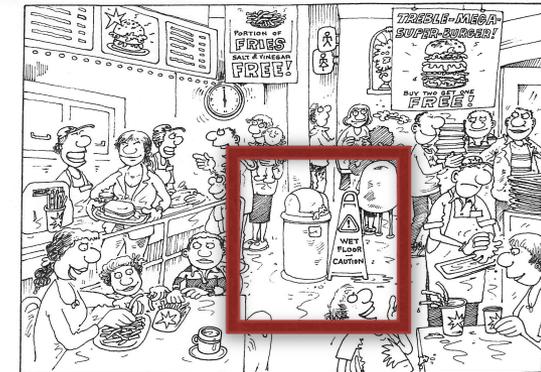
B: Eh! Tom ea...ea...eaten?

A: **IS eaten.**

B: **IS eaten...eeh!!**

A: By snake. **Snake eat Tom.**

Picture A



WH 疑問文

A: Dust box close?

B: Where?

A: **Dust box where?**

B: Where?

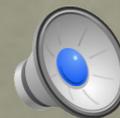
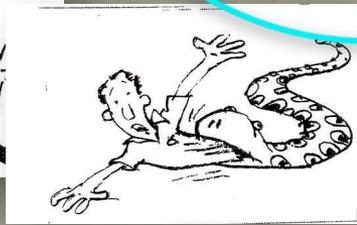
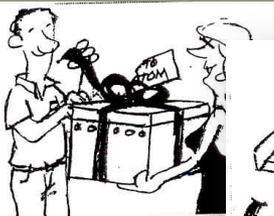
A: Where.

B: Where?

A: Where.

B: Where?

A: Where. **Where is dust box?**



自己修正



A: I have scene...scene, ah, woman in the snake...snake. Into the...snake.

B: Um? Snake into snake?

A: Bo...box...snake.

B: Snake in the box?

A: Mmm...into the box. Snake into the box?

B: Yes, yes, yes, yes.

A: Um...mmm.

B: Snake is in the box.

自由で自然な コミュニケーションの特徴

- 自然な発達段階に沿った構造の使用 (No+N/V, 繋辞の脱落など)
- 協調的・共感的反復, アフォーダンスの積極的提供
- 意図の明確化のための言い直し, 言い換え, その結果としての自己修正
- 意味交渉による対話修復
- フィードバックや対話者からの表現の取り込みによる発話修正
- 足場組みと垂直構造
- 対話者の発話継続を促すための誘導的言語使用
- 高いuptake率
- 内言やつぶやき
- 協働的談話の中での言語的気づき
- 形式指導を効果的なものにする意味空間の形成
- 発達の必要条件である言語的なゆらぎ (variation)

コミュニケーションと 相互作用の理論

- 社会文化理論
——他者統制から自己統制へ；間主観性；足場組み
- 実践共同体
——没入と反復
- 社会化理論
——主体性の獲得
- 社会認知理論
——協働と同調
- 発達心理学／母語習得／言語障害研究
——共同注意；心の理論；発達段階
- 言語学
——協調の原理；関係性理論
- 生態心理学
——環境・文脈の支え
- 神経科学
——社会認知領域の活性化
- ダイナミック・システム理論
——バリエーション・ゆらぎの持つ意味
- 第二言語習得研究
——言語使用の創造性；教室学習の限界と可能性；気づき；学習者由来の形式焦点化；ランゲージング

“Less Is More”

——指導上のメリット——

表出が短く，単純な今だから気づける／注意を払える



A LEG

VS. FOUR LEGS

THERE WAS A KOALA IN THE ZOO THEY VISITED.

VS.

THERE WERE KOALAS IN THE ZOO THEY VISITED.

(cf., Newport, 1988; 2000)

5

簡単なまとめ

最小限の要請

Task-based interaction

(タスク基盤の相互作用)

によってもたらされる

自由に自然な言語使用機会

の確保

その中で、言語発達の契機が生まれ、
有効な指導を提供する機会が作り出される

機能的定義

タスク

教室で、自由で自然な言語使用を促すためにどうすればいいかを考えて提案されてきた、それを実現するための装置

TBLT

そうした言語使用を実現するため、授業の中にタスクをどのように位置づければいいのかについての提案

実現のために必要なこと

「基礎から発展へ」と考える

配列的で線的な発達観

「生徒が間違った英語を口にすることは避けなければならない」という

完全主義

から **自由** になること

Thank You



松村昌紀

masanori@meijo-u.ac.jp